



2023年3月期 連結決算概況 2024年3月期 通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2023年5月12日

(スライド1)

- CFOの武田でございます。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2023年3月期 決算説明会」にご参加いただき、誠に有難うございます。
- 本日は、まず私から2023年3月期の連結決算概況および過去3年間の振り返りにつきまして、ご説明いたします。その後、CEOのシュテファン・カウフマンから経営戦略について、そして再び私から2024年3月期の通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。
- 本日は継続事業を中心にご説明いたしますが、非継続事業の詳細についてはAppendixに掲載しておりますので、ご参照ください。
- それでは、決算概況についてご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

2023年3月期 通期実績

☑ 通期にわたり厳しい事業環境が継続したものの、グローバルで複数のリスク最小化に向けた対策を講じ、**2019年の経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%を達成**

- 売上高： 連結で+18%成長。医療分野の売上高は4Q及び累計において過去最高の売上高内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
- 営業利益： 2023年3月期累計の営業利益は、額・率ともに過去最高*

2024年3月期 通期業績見通し

☑ 内視鏡事業、治療機器事業ともに成長し、医療分野は過去最高の売上高となる見込み。**QARAをはじめとする運営基盤強化のための費用などが増加するものの、調整後営業利益は前期比3%増の見通し**

- 売上高： 前期比4%（為替影響調整後5%）増の9,140億円を見込む
- 調整後営業利益： 前期比3%（為替影響調整後6%）増の1,820億円を見込む
- 当期利益**： 科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,360億円、EPSは前期比141%増の273円となる見通し
- 株主還元： 年間配当は前年比2円増の18円を予定。自己株式の取得約1,000億円を見込む

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から **親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上する見込みです。

(スライド3)

- 2023年3月期 第4四半期および通期決算における主なポイントです。
- 売上高は連結で18%の増加です。内視鏡事業・治療機器事業ともに2桁成長を達成し、医療分野は第4四半期及び累計としても過去最高の売上高となりました。
- 営業利益は、2023年3月期累計において、額・率ともに過去最高となりました。
- 本年度は期初から、上海ロックダウンや、ウクライナにおける戦争、半導体などの部品の供給不足、原材料価格の高騰など、外部環境の影響を数多く受けました。これまで以上に難しく厳しい一年となりましたが、機会を確実に捉えつつ、リスク最小化対策などを継続的に講じ、経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超の目標を達成することができました。
- 続いて2024年3月期の通期業績見通しです。
- 売上高は、前期比4%増の9,140億円、調整後営業利益は前期比3%増の1,820億円の見通しです。
- 継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は、科学事業（エビデント）の譲渡益の計上を当期第1四半期に見込んでおり、過去最高の3,360億円、EPSは273円、EPS成長率は141%となる見通しです。
- 2024年3月期末の配当は、安定的かつ継続的に増配していくという方針の下、業績予想も踏まえ、前期比2円増となる18円に増配予定です。また、本日、適時開示でお知らせの通り、自己株式の取得約1,000億円を見込んでいます。



01

2023年3月期 連結業績および事業概況

(スライド4)

- それでは、2023年3月期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2023年3月期 通期実績 ①連結業績概況

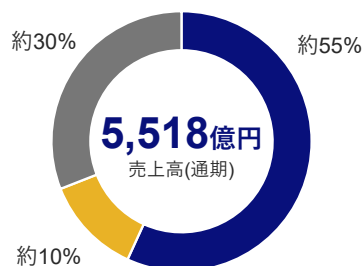
- 1 売上高：連結で+18%成長。医療分野の売上高は4Q及び累計において過去最高の売上高。内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
- 2 営業利益：2019年の経営戦略で掲げた調整後営業利益率は20%を達成。2023年3月期累計の営業利益は、額・率ともに過去最高*

| | | 通期実績 (4-3月) | | | | 第4四半期実績 (1-3月) | | | |
|------------------|-------------------------------|------------------|------------------|------|---------|------------------|------------------|-----------------------|---------|
| (単位: 億円) | | FY2022 | FY2023 | 前期比 | 為替影響調整後 | FY2022 | FY2023 | 前期比 | 為替影響調整後 |
| ** 継続事業 | 売上高 | 7,501 | 8,819 | +18% | +4% | 2,029 | 2,404 | +18% | +9% |
| | 売上総利益 (売上総利益率) | 5,067 (67.6%) | 5,968 (67.7%) | +18% | +2% | 1,406 (69.3%) | 1,631 (67.9%) | +16% | +3% |
| | 販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率) | 3,575 (47.7%) | 4,205 (47.7%) | +18% | +7% | 984 (48.5%) | 1,145 (47.6%) | +16% | +8% |
| | その他の収益および費用など | ▲30 | 103 | - | - | 17 | ▲46 | - | - |
| | 営業利益 (営業利益率) | 1,462 (19.5%) | 1,866 (21.2%) | +28% | ▲3% | 440 (21.7%) | 440 (18.3%) | 0% | ▲23% |
| | 調整後営業利益 (調整後営業利益率) | 1,507 (20.1%) | 1,768 (20.0%) | +17% | ▲12% | 432 (21.3%) | 487 (20.2%) | +13% | ▲11% |
| | 税引前利益 (税引前利益率) | 1,417 (18.9%) | 1,823 (20.7%) | +29% | | 447 (22.0%) | 429 (17.9%) | ▲4% | |
| | 継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率) | 1,106 (14.8%) | 1,380 (15.7%) | +25% | | 277 (13.6%) | 324 (13.5%) | +17% | |
| | 非継続事業からの当期利益 | 53 | 56 | +3億円 | | 5 | 29 | +523% | |
| | 当期利益 | 1,160 | 1,436 | +24% | | 281 | 352 | +25% | |
| 親会社の所有者に帰属する当期利益 | 1,157 | 1,434 | +24% | | 281 | 352 | +25% | | |
| EPS | 90円 | 113円 | | | - | - | | | |
| | | | | | | | | 2023年3月期配当 年間配当16円 | |

(スライド5)

- まず、連結業績の概況です。
- 2023年3月期は、上海ロックダウンや、ウクライナにおける戦争、半導体などの部品の供給不足、原材料価格の高騰など、通期にわたって厳しい環境下での事業運営となりましたが、患者さんや医療従事者の皆様のご期待に応えるよう、製品・サービスを提供しつづける努力・工夫を行い、これらチャレンジの克服に努めました。また同時に、当社がメドテックカンパニーとして持続的成長をするために必要な運営基盤強化などへの投資も積極的に行ってまいりました。持続的成長を強く意識し、機会を確実に捉えながら、リスク最小化対策などを継続的に講じ、経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%超の目標を達成することができました。
- 連結売上高は8,819億円です。医療分野は第4四半期及び累計として過去最高の売上高となり、18%の成長となりました。内視鏡事業・治療機器事業ともに2桁成長を達成しました。
- 売上総利益は5,968億円、売上総利益率は0.1ポイントの改善です。前期に発生した、十二指腸内視鏡の市場対応に係る引当金の戻入約42億円及び、気管支鏡の自主回収に係る引当金の戻入約27億円がなくなったことに加え、当期においては半導体をはじめとする原材料の調達コストが上昇しましたが、中国での売上が増加したことによる地域別売上構成の変化や円安による為替影響を主要因として、改善しました。
- 販管費は4,205億円、販管費比率は前年と同水準です。インフレが続く中、特に、販売活動に伴う費用やQARAをはじめ事業運営基盤強化のための費用などが増加しました。
- その他の損益などは、103億円です。前期における連結子会社の間接税に係る引当金の戻入約30億円やMedi-Tate社の段階取得に係る差益約28億円などがなくなったものの、当期において東京都内の土地の売却益約164億円などを計上したことにより、前期比で増加しています。なお、第3四半期決算説明会でご説明差し上げたFDA関連対応費用は当期において約19億円計上しています。
- 営業利益は1,866億円、前期比で404億円、28%増加しました。営業利益率は1.7ポイント改善し、21.2%でした。なお、2019年の経営戦略で掲げた、その他の収益およびその他の費用を除外した調整後営業利益率20%超の目標は達成することができました。
- 継続事業の当期利益は1,380億円、継続事業のEPSは109円、EPS成長率は26%となりました。継続事業と非継続事業を合わせた当期利益は1,436億円、EPSは113円、EPS成長率は25%となりました。
- 2023年3月期末の配当につきましては、2月公表時と同額の16円とさせていただきます。

2023年3月期 通期実績 ②内視鏡事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

| (単位: 億円) | FY2022 | | FY2023 | |
|--------------------|--------|-------|------------------|------------------|
| | 4Q | 通期 | 4Q | 通期 |
| 売上高 | 1,278 | 4,615 | 1,528 | 5,518 |
| 営業利益 | 416 | 1,332 | 421 | 1,528 |
| その他の損益** | 11 | ▲29 | ▲15 | ▲38 |
| 営業利益率 (為替影響調整後) | 32.5% | 28.9% | 27.5% (24.0%) | 27.7% (24.0%) |
| 調整後営業利益率 | 31.7% | 29.5% | 28.5% | 28.4% |

**決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2023 vs FY2022 (1-3月)
売上高成長率

円ベース
為替込み

為替影響
調整後

| 事業セグメント | 円ベース 為替込み | 為替影響 調整後 |
|----------|--------------|-------------|
| ■ 消化器内視鏡 | 19% | 9% |
| ■ 外科内視鏡 | 33% | 22% |
| ■ 医療サービス | 15% | 5% |
| 合計 | 20% | 10% |

「EVIS X1」シリーズの販売が好調に推移している欧州をはじめ、全地域でプラス成長。「EVIS X1」シリーズに加え、一世代前の上部消化管ビデオスコープや大腸ビデオスコープの販売が堅調に推移

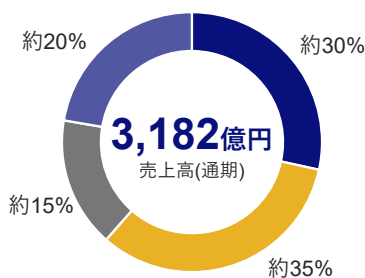
外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」の発売に成功し、販売が好調に推移している日本が増収に寄与

保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、中国をはじめ全地域でプラス成長

(スライド6)

- 各セグメントの概況について、ご説明します。
- まず内視鏡事業です。売上高は5,518億円、20%のプラス成長でした。その他の収益/費用を除外した調整後営業利益は1,566億円、調整後営業利益率は28.4%でした。
- 上海ロックダウンなどの影響を受けていた中国での売上が回復し、全ての地域、サブセグメントで増収となりました。円安が追い風となり、特に欧米の売上が増加しました。アジア・オセアニアも好調に推移しています。製品別では、最新モデルの消化器内視鏡システム「EVIS X1」や外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」に加え、一世代前の製品群についても販売が好調です。前期に計上した、十二指腸内視鏡の市場対応に係る引当金の戻入約42億円の影響がなくなったことに加え、原材料調達などのコストや、「EVIS X1」の拡販をはじめとした売上成長に伴う費用及びQARAなど運営基盤強化のための費用などの販管費が増加しましたが、主に増収と円安による為替影響により、調整後営業利益は増益となりました。その他の損益では、前期に計上した引当金の戻入約19億円（その他の収益）や開発資産に係る減損損失約16億円（その他の費用）などの影響が今期はなくなっています。
- 各分野の第4四半期（1-3月）の事業概況についてお話しします。
- 消化器内視鏡では、「EVIS X1」シリーズの販売が好調に推移している欧州をはじめ、全地域でプラス成長となりました。「EVIS X1」に加え、一世代前の上部消化管ビデオスコープや大腸ビデオスコープの販売も堅調に推移しています。
- なお、第4四半期における「EVIS X1」シリーズの売上割合は、消化器内視鏡のサブセグメントの中で約15%となっています。また、導入済みの地域における「EVIS X1」の売上高は、前年同期比で約30%のプラス成長となっており、市場への浸透が加速しています。
- 外科内視鏡では、新製品「VISERA ELITE III」の発売に成功し、販売が好調に推移している日本が増収に寄与しています。
- 医療サービスでは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加などもあり、中国をはじめ全地域でプラス成長となりました。

2023年3月期 通期実績 ③治療機器事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

FY2023 vs FY2022 (1-3月)
売上高成長率

円ベース
為替込み

■ 消化器科 (処置具)

17%

■ 症例数が増加している北米で好調に推移し、全ての製品群でプラス成長。特にERCPやサンプリング (生検鉗子など) 用の製品群の売上が拡大

為替影響
調整後

9%

■ 泌尿器科**

22%

■ 症例数の回復が進み、特に北米で好調に推移。BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功

10%

■ 呼吸器科

11%

■ COVID感染拡大に伴う呼吸器関連の予算や政府による低金利融資施策の後押しがあった中国が増収に貢献。超音波気管支鏡の販売が堅調に推移

2%

■ その他の治療領域

16%

■ エネルギーデバイスが好調に推移。特に「THUNDERBEAT」の売上が寄与

7%

合計

17%

7%

| (単位: 億円) | FY2022 | | FY2023 | |
|--------------------|--------------|--------------|------------------|------------------|
| | 4Q | 通期 | 4Q | 通期 |
| 売上高 | 719 | 2,756 | 843 | 3,182 |
| 営業利益 | 170 | 608 | 156 | 637 |
| その他の損益** | 17 | 30 | ▲18 | ▲6 |
| 営業利益率 (為替影響調整後) | 23.6% | 22.1% | 18.5% (16.9%) | 20.0% (18.5%) |
| 調整後営業利益率 | 21.2% | 21.0% | 20.6% | 20.2% |

決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値/*FY2023より、治療機器事業のその他の治療領域に分類していた婦人科製品について、治療機器事業の泌尿器科に含めています。FY2022の実績も同様に組替え済

(スライド7)

- 治療機器事業です。売上高は3,182億円、16%のプラス成長でした。調整後営業利益は643億円、調整後営業利益率は20.2%でした。
- 欧米での症例数の回復に加え、円安も追い風とし、全ての分野で増収となりました。特に、膵管や胆管などの内視鏡診断・治療に使用するERCP (Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography/内視鏡的逆行性胆道膵管造影術) 用や、スクリーニング検査における組織採取に用いられる生検鉗子などのサンプリング用の製品群が牽引した消化器科処置具とBPH (Benign Prostatic Hyperplasia/前立腺肥大症) 用の切除用電極が好調な泌尿器科が売上に貢献しています。前期に計上した、気管支鏡の自主回収に係る引当金の戻入約27億円がなくなったことに加え、今期は原材料調達などのコストや、QARA対応などの費用の発生や事業活動の回復に伴い販管費が増加しましたが、主に増収と円安による為替影響により、調整後営業利益は増益です。その他の収益では、前期にMedi-Tate社の段階取得に係る差益約28億円や引当金の戻入約10億円などを計上した一方で、今期はMedi-Tate社の条件付対価の評価替として約14億円を計上しました。
- 各分野の第4四半期 (1-3月) の事業概況についてお話しします。
- 消化器科処置具では、特に症例数が増加している北米で好調に推移し、全ての製品群でプラス成長となりました。特に、ERCPや生検鉗子などのサンプリング用の製品群売上が引き続き拡大しました。
- 泌尿器科では、症例数の回復が進んでいる北米を中心に好調に推移しました。BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System (ソルティブ スーパーパルスド レーザーシステム)」が引き続き牽引しました。
- 呼吸器科では、COVID感染拡大に伴う呼吸器関連の予算や政府による低金利融資施策の後押しがあった中国において、キャピタル製品の販売が好調でした。特に、超音波気管支鏡が堅調に推移しました。
- その他の治療領域では、エネルギーデバイスが好調に推移しました。特に、「THUNDERBEAT」の売上が寄与しています。

財政状態計算書

- 非継続事業の資産、負債を、売却目的で保有する資産、それに直接関連する負債として記載
- 為替の影響（約720億円）が含まれていることから、バランスシートは実質約780億円の増加

| (単位：億円) | 2022年3月末 | 2023年3月末 | 増減額 | | 2022年3月末 | 2023年3月末 | 増減額 |
|-------------|---------------|---------------|---------------|----------------------|---------------|---------------|---------------|
| 流動資産 | 6,946 | 7,264 | +318 | 流動負債 | 3,763 | 4,619 | +856 |
| 棚卸資産 | 1,674 | 1,630 | ▲44 | 社債および借入金 | 523 | 500 | ▲23 |
| 売却目的で保有する資産 | 47 | 1,696 | +1,649 | 売却目的で保有する資産に直接関連する負債 | 0 | 433 | +433 |
| 非流動資産 | 6,634 | 7,820 | +1,186 | 非流動負債 | 4,704 | 4,052 | ▲652 |
| 有形固定資産 | 2,471 | 2,387 | ▲84 | 社債および借入金 | 3,338 | 2,901 | ▲438 |
| 無形資産・その他 | 2,518 | 3,607 | +1,089 | 資本 | 5,114 | 6,412 | +1,299 |
| のれん | 1,645 | 1,825 | +180 | 自己資本比率 | 37.6% | 42.4% | +4.8pt |
| 資産合計 | 13,580 | 15,083 | +1,503 | 負債および資本合計 | 13,580 | 15,083 | +1,503 |

(スライド8)

- 2023年3月末の財政状態です。
- 第2四半期より、非継続事業の資産および負債は、「売却目的で保有する資産」「売却目的で保有する資産に直接関連する負債」として明記しています。
- バランスシートは1,503億円増加していますが、そのうち約720億円が為替の影響となり、実質約780億円の増加となります。
- 税引前利益は増加しているものの、法人所得税の支払やデモ・ローナー品、リース資産等の有形固定資産の取得、東京、長野での再開発や自己株式取得、社債の償還に伴う支出等によって、現預金は減少しました。
- 自己資本比率は前期末比で4.8ポイント増加し、42.4%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

- FCF： 営業CFは985億円のプラスとなり、特殊要因を考慮した調整後FCFは853億円のプラス
 財務CF： 自己株式の取得（500億円）や配当金支払い、社債の償還（400億円）による支出などにより、1,432億円のマイナス

通期実績（4-3月）

| (単位：億円) | | FY2022 | FY2023 | 増減 | |
|---------|-------|----------------|--------|--------|--------|
| 継続事業 | 非継続事業 | 税引前利益 | 1,417 | 1,823 | +406 |
| | | 営業キャッシュフロー | 1,697 | 985 | ▲712 |
| | | 投資キャッシュフロー | ▲710 | ▲584 | +126 |
| | | フリーキャッシュフロー | 987 | 401 | ▲586 |
| | | 調整後フリーキャッシュフロー | 1,312 | 853 | ▲459 |
| | | 財務キャッシュフロー | ▲407 | ▲1,432 | ▲1,025 |
| | | 現金および現金同等物期末残高 | 3,026 | 2,055 | ▲971 |

2023年3月期の主な特殊要因

| | |
|----------------------------|--------|
| 営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出・投資など | ▲424億円 |
| 営業CF：海外子会社における年金資産の追加拠出 | ▲122億円 |
| 投資CF：幡ヶ谷土地売却による収入 | +191億円 |
| 投資CF：投資有価証券、事業・子会社の取得など | ▲76億円 |
| 投資CF：科学事業の分社化に伴う一時的な資金負担など | ▲21億円 |

2022年3月期の主な特殊要因

| | |
|----------------------|--------|
| 営業CF：社外転進支援制度の引当取崩など | ▲112億円 |
| 投資CF：事業・子会社の取得など | ▲235億円 |

*非継続事業のキャッシュフローはAppendix (P.22) をご覧ください

(スライド9)

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、985億円のプラスとなりました。科学事業再編に伴う税金支出、日本において2021年11月の中間納付が発生せず2022年5月に年間の税金を一括納付したこと、および繰越欠損金がなくなったことなどによる法人税の支払増加や、部品不足を背景とした部材の前倒し購入による在庫の増加などを背景とした運転資本の増加など、多くの特殊要因、当期特有の事情が前年と比較して減少の主要因です。
- 投資キャッシュフローは、584億円のマイナスとなりました。前期はMedi-tate社買収に伴う支出が計上された一方、当期は東京都内の土地売却による有形固定資産の売却による収入による増加があり、改善しております。
- フリーキャッシュフローは、401億円のプラスです。事業取得、譲渡、再編など特殊要因を考慮した調整後のフリーキャッシュフローは853億円のプラスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、1,432億円のマイナスとなりました。自己株式の取得や配当金の支払い、社債の償還による支出などが主な要因です。
- 結果、2023年3月末の現金および現金同等物残は971億円減の2,055億円となりました。



02

2024年3月期 通期業績見通し

(スライド10)

- 次に、2024年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期業績見通し ①連結業績

- 1 売上高： 前期比4%（為替影響調整後5%）増の9,140億円を見込む
- 2 調整後営業利益： 前期比3%（為替影響調整後6%）増の1,820億円を見込む
- 3 当期利益*： 科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,360億円、EPSは前期比141%増の273円となる見通し
- 4 株主還元： 年間配当は前年比2円増の18円を予定。自己株式の取得約1,000億円を見込む

| | | (単位：億円) | | 2023年3月期 通期実績 | 2024年3月期 通期見通し | 増減 | 前期比 | 為替影響調整後 |
|---------|---|--------------------------|----------|--------------------------|----------------|------------|------------|---------|
| ** 継続事業 | 売上高 | 8,819 | 1 | 9,140 | +321 | +4% | +5% | |
| | 売上総利益 (売上総利益率) | 5,968 (67.7%) | | 6,270 (68.6%) | +302 | +5% | +7% | |
| | 販売費および一般管理費 (販売費および一般管理费率) | 4,205 (47.7%) | | 4,460 (48.8%) | +255 | +6% | +7% | |
| | その他の収益および費用など | 103 | | ▲180 | - | - | - | |
| | 営業利益 (営業利益率) | 1,866 (21.2%) | | 1,630 (17.8%) | ▲236 | ▲13% | ▲9% | |
| | 調整後営業利益 (調整後営業利益率) | 1,768 (20.0%) | 2 | 1,820 (19.9%) | +52 | +3% | +6% | |
| | 税引前利益 (税引前利益率) | 1,823 (20.7%) | | 1,590 (17.4%) | | | | |
| | 継続事業からの当期利益 | 1,380 (15.7%) | | 1,150 (12.6%) | | | | |
| | *** 非継続事業 | 非継続事業からの当期利益 | 56 | | 2,210 | | | |
| | 継続事業 | 当期利益 | 1,436 | 3 | 3,360 | | | |
| | 親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率) | 1,434 (16.3%) | | 3,360 (36.8%) | | | | |
| | EPS | 113円 | | 273円 | | | | |

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上する見込みです

| | |
|------------|------------|
| 2024年3月期配当 | |
| 4 | 年間配当18円を予定 |

(スライド11)

- 2024年3月期の通期業績見通しです。
- 業績見通しの前提となる想定為替レートは、1ドル132円、1ユーロ144円としています。
- 売上高は、前期比4%増の9,140億円を見込んでいます。
- FDAからの指摘事項への対応に加え、患者さんの安全に資する包括的な施策の実施を最優先課題とし大幅な費用の増加を見込んでいます。また研究開発や生産性向上のための取り組みに対する資源配分も優先させます。一方で原資確保のため原価低減策、販管費の適正化を推進してまいります。
- 大きな課題への対応と持続的成長投資を継続しつつ、調整後営業利益率は前期水準の約20%の維持を目指し、調整後営業利益は前期比3%増の1,820億円となる計画です。
- 当期利益は、科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し、過去最高の3,360億円となる見通しです。EPSは273円、EPS成長率は141%となる見込みです。また、継続事業の当期利益は1,150億円、継続事業のEPSは93円、EPS成長率は▲14%を見込んでいます。
- 2024年3月期末の配当は、安定的かつ継続的に増配していくという方針の下、業績予想も踏まえ、前期比2円増となる18円に増配予定です。また、年間で自己株式の取得約1,000億円を見込んでいます。

通期業績見通し ②セグメント別業績

1 医療分野： 過去最高の売上高となる見込み

「EVIS X1」は米国食品医薬局（FDA）による510(k)クリアランスを取得済み。米国における導入は2024年3月期中頃を予定

2 非継続事業： 譲渡益を計上し、大幅増益を見込む

| (単位：億円) | | 2023年3月期 通期実績 | 2024年3月期 通期見通し* | 増減 | 前期比 | 為替影響調整後 | |
|------------|------|---------------|-----------------|-------|--------|---------|--------|
| 内視鏡 | 売上高 | 5,518 | 1 | 5,720 | +202 | +4% | +5% |
| | 営業利益 | 1,528 | | 1,580 | +52 | +3% | +6% |
| 治療機器 | 売上高 | 3,182 | 1 | 3,290 | +108 | +3% | +5% |
| | 営業利益 | 637 | | 560 | ▲77 | ▲12% | ▲8% |
| その他 | 売上高 | 119 | | 130 | +11 | +9% | +8% |
| | 営業損益 | ▲9 | | 10 | +19 | +19億円 | +19億円 |
| 全社・消去 | 営業損益 | ▲289 | | ▲520 | ▲231 | ▲231億円 | ▲232億円 |
| 連結合計 | 売上高 | 8,819 | | 9,140 | +321 | +4% | +5% |
| | 営業利益 | 1,866 | | 1,630 | ▲236 | ▲13% | ▲9% |
| (参考) 非継続事業 | 売上高 | 1,354 | | 0 | ▲1,354 | - | - |
| | 営業利益 | 70 | 2 | 3,470 | +3,400 | - | - |

*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上する見込みです。

(スライド12)

- セグメント別の業績見通しです。
- 内視鏡事業と治療機器事業ともに引き続き成長し、両事業を合わせた医療分野の売上高は過去最高となる見通しです。
- 内視鏡事業では、引き続き日本、欧州、アジアでの「EVIS X1」の拡販効果に期待をしています。なお、米国においては、4月末にFDAからの510(k)クリアランスを取得しており、5月7日から9日まで開催されていた消化器科の学会DDW（Digestive Diseases Week）にて「EVIS X1」の展示及びデモンストラーションを行いました。米国での販売開始は、引き続き2024年3月期中頃を予定しています。
- 治療機器事業では、症例数の回復に伴い、引き続き消化器科、泌尿器科、呼吸器科の3分野を中心に成長を見込んでおります。
- 全社消去については、2023年3月期において計上した東京都内の土地の売却益約164億円などがなくなることに加え、運営基盤強化のための費用などが増加する見込みです。
- 非継続事業は、譲渡益を計上し、大幅な増益を見込んでいます。

OLYMPUS

参考資料 過去3年間の振り返り

2023年までの意欲的なタイムライン

長期的かつ持続的な成長に必要な組織構造、運用体制、従業員のマインドセットを引き出し、潜在能力を最大化する

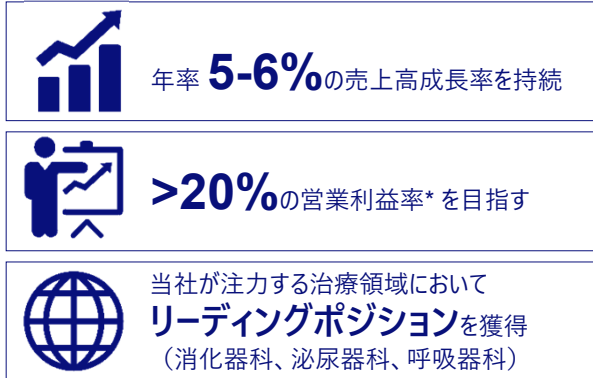


(スライド15)

- 続いて、過去3年間の振り返りをさせていただきます。
- 当社は、2019年1月に企業変革プラン「Transform Olympus」を発表し、2019年11月には経営戦略においてグローバル・メドテックカンパニーと同水準となる調整後営業利益率20%超を2023年3月期に達成することを宣言しました。
- 過去3年間、経営陣、全社員が一丸となってあらゆる施策を実行し変革を推進し続けた結果、2019年3月期*に9.2%だった調整後営業利益率は、2023年3月期では20.0%と大きく改善しています。
- この非常に短い期間において、事業構造、組織・オペレーティングモデル、従業員の意識や企業文化などあらゆる面で大きく変化・進化したと考えます。しかしながら、依然として持続可能な成長を実現するために、世界に通用する、とりわけ患者さんはじめすべてのステークホルダーに認められるメドテックカンパニーとなるためには多くの課題もあります。今後も当社のポテンシャルを最大限発揮できるよう取り組みを継続させてまいります。

*科学事業/映像事業の調整後営業利益を含む

戦略目標と業績指標の達成



* 特殊要因調整後の継続事業ベース
** FY2020を起点とした3年間における為替影響調整後の継続事業ベースのCAGR
*** FY2020を起点とした3年間のCAGR

- ✓ マクロ経済の低迷やCovidによるロックダウンの影響を受けながらも、売上高CAGRは+4.6%**と伸長
- ✓ 3年間の企業変革により、連結営業利益は倍増、連結営業利益率は20%を達成*
- ✓ 収益性の大幅な改善と800億円の自社株買いにより、調整後EPS成長率***は25%超に到達
- ✓ 将来の持続的な成長を実現するため、R&Dへの成長投資を業界の同業他社と同レベルの水準を維持
- ✓ 映像事業と科学事業の譲渡により、医療機器専門企業に変革

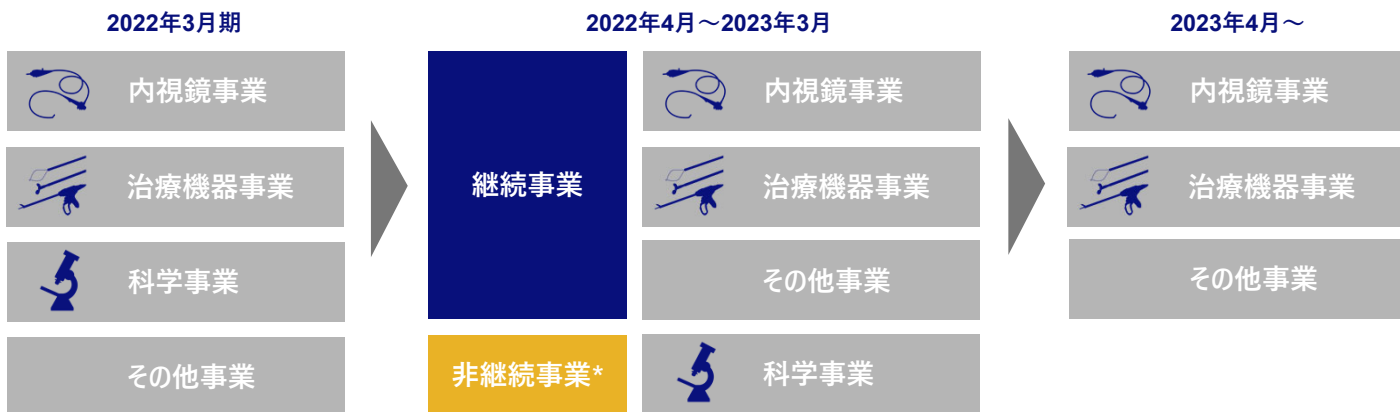
(スライド16)

- 2019年の経営戦略発表以降、マクロ経済の問題や新型コロナウイルスの感染拡大に伴う都市のロックダウンなど、想定外の事態が複数発生したにもかかわらず、この3年間における為替影響調整後の継続事業の連結売上高CAGRは4.6%となりました。
- 売上成長に加え、コスト削減および資本効率改善への取り組みを着実に進めたことにより、この3年間で営業利益は倍増し、2023年3月期の調整後営業利益率は20%を達成しています。
- 収益性の大幅な改善や800億円の自社株買い実施などにより、参考指標として掲げていた調整後EPS成長率も25%超を達成しました。
- 一方で、将来にわたり持続的な成長を継続するために肝要となる、R&Dへの投資は同業他社と同程度実行しています。
- 経営戦略の最重要事項の1つとして位置づけをした事業ポートフォリオの見直しについては、映像事業、科学事業の譲渡を決め、すべて完了しております。これからは医療機器専門企業として、今まで以上に医療の現場や患者さん、そして社会全体に貢献できるよう努めてまいります。

参考資料

開示の変更点

科学事業（エビデント）の譲渡に伴い、第2四半期より科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

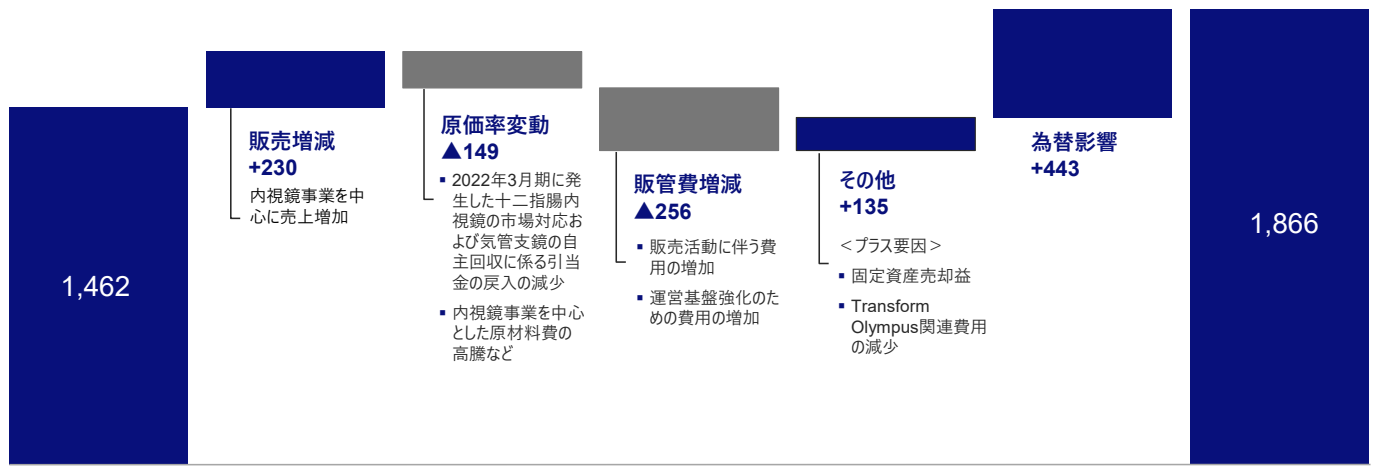


- 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。これに伴い、当第2四半期連結会計期間より、科学事業に関する損益を非継続事業に分類するとともに、前連結累計期間についても同様の形で再表示しています。なお、売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、2023年4月に全株式の譲渡を完了しています

2023年3月期 通期実績 連結営業利益増減要因

通期実績 (4-3月)



**販売増減
+230**
内視鏡事業を中心に売上増加

**原価率変動
▲149**

- 2022年3月期に発生した十二指腸内視鏡の市場対応および気管支鏡の自主回収に係る引当金の戻入の減少
- 内視鏡事業を中心とした原材料費の高騰など

**販管費増減
▲256**

- 販売活動に伴う費用の増加
- 運営基盤強化のための費用の増加

**その他
+135**

<プラス要因>

- 固定資産売却益
- Transform Olympus関連費用の減少

**為替影響
+443**

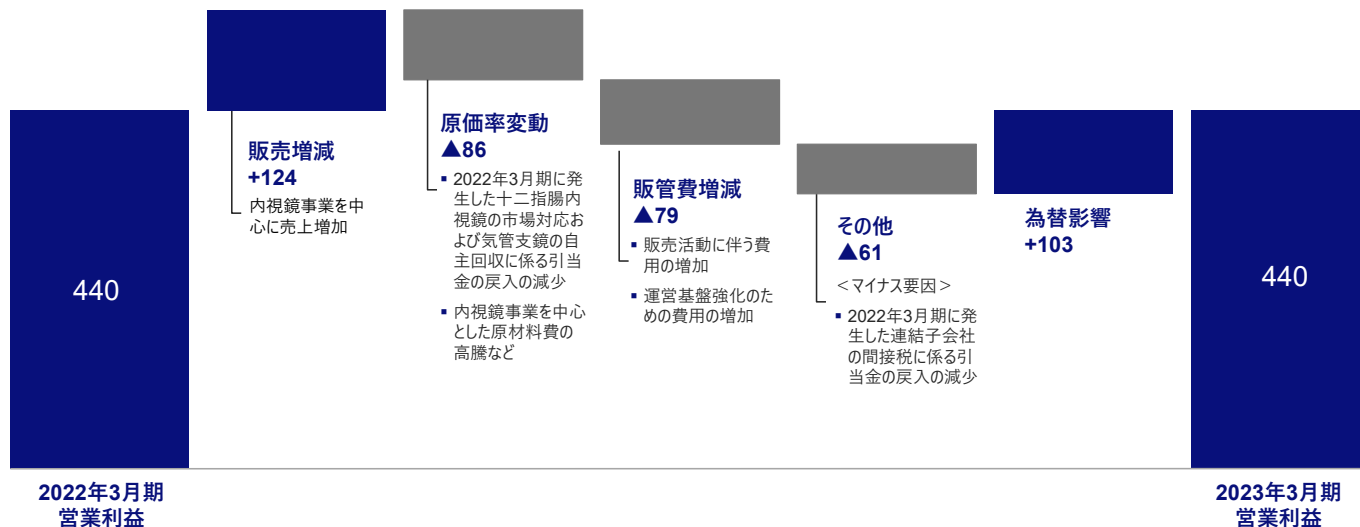
2022年3月期
営業利益

2023年3月期
営業利益

(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2023年3月期 第4四半期実績 連結営業利益増減要因

第4四半期実績（1-3月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

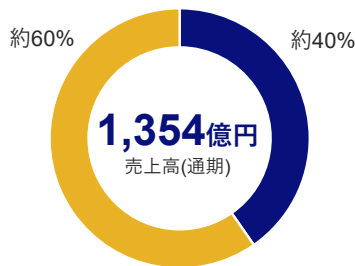
2023年3月期 通期実績 連結業績概況（2月公表見通し比）

| (単位：億円) | | 2023年3月期 2月公表見通し | 2023年3月期 通期実績 | 増減 | 2月公表見通し比 | 為替影響調整後 |
|----------|---|--------------------------------|--------------------------------|------------|------------|------------|
| * 継続事業 | 売上高 | 8,710 | 8,819 | +109 | +1% | +1% |
| | 売上総利益 (売上総利益率) | 5,940 (68.2%) | 5,968 (67.7%) | +28 | 0% | 0% |
| | 販売費および一般管理費 (販売費および一般管理费率) | 4,110 (47.2%) | 4,205 (47.7%) | +95 | +2% | +2% |
| | その他の収益および費用など | 150 | 103 | - | - | - |
| | 営業利益 (営業利益率) | 1,980 (22.7%) | 1,866 (21.2%) | ▲114 | ▲6% | ▲6% |
| | 調整後営業利益 (調整後営業利益率) | 1,840 (21.1%) | 1,768 (20.0%) | ▲72 | ▲4% | ▲4% |
| | 税引前利益 (税引前利益率) | 1,970 (22.6%) | 1,823 (20.7%) | | | |
| | 継続事業からの当期利益 | 1,490 (17.1%) | 1,380 (15.7%) | | | |
| | 非継続事業からの当期利益 | 2,270 | 56 | | | |
| | 当期利益 | 3,760 | 1,436 | | | |
| ** 非継続事業 | 親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率) | 3,760 (43.2%) | 1,434 (16.3%) | | | |
| | EPS | 297円 | 113円 | | | |

*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

**2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上する見込みです

2023年3月期 通期実績 非継続事業 (科学事業)



| (単位: 億円) | FY2022 | | FY2023 | |
|--------------------|--------------|--------------|-----------------|----------------|
| | 4Q | 通期 | 4Q | 通期 |
| 売上高 | 362 | 1,187 | 444 | 1,354 |
| 営業利益 | 10 | 77 | 56 | 70 |
| その他の損益* | ▲48 | ▲94 | ▲27 | ▲110 |
| 営業利益率 (為替影響調整後) | 2.9% | 6.5% | 12.5% (9.2%) | 5.2% (0.7%) |
| 調整後営業利益率 | 16.2% | 14.4% | 18.6% | 13.3% |

*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2023 vs FY2022 (1-3月) 売上高成長率

円ベース
為替込み

| 事業区分 | 成長率 | 説明 | 為替影響調整後 |
|------------|-----|--|---------|
| ■ ライフサイエンス | 14% | ▪ 研究所、大学、病院での予算執行が堅調に推移。供給状況が改善したことに伴い、受注残の解消が進んだ北米が増収に貢献 | 4% |
| ■ 産業 | 31% | ▪ 顧客市場における設備投資状況は引き続き好調。供給状況が改善し、出荷が進んだ中国における工業用顕微鏡や、高価格帯システム製品の受注が好調な欧州における非破壊検査機器が牽引し、増収 | 20% |
| 合計 | 23% | | 12% |

非継続事業のキャッシュフロー 通期実績 (4-3月)

| | FY2022 | FY2023 | 増減 |
|------------|--------|--------|------|
| 営業キャッシュフロー | 103 | ▲132 | ▲234 |
| 投資キャッシュフロー | ▲77 | ▲117 | ▲40 |
| 財務キャッシュフロー | ▲8 | ▲29 | ▲21 |

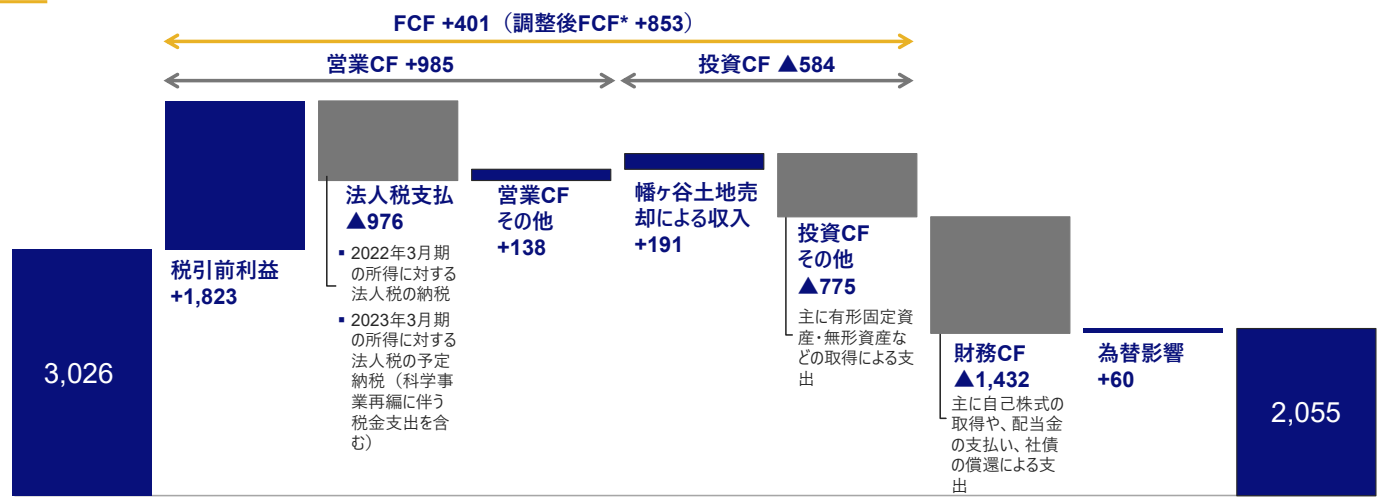
2023年3月期 通期実績 セグメント別概況

| 通期実績 (4-3月) | | | | | 第4四半期実績 (1-3月) | | | | |
|-------------|----------|----------|-------|---------|----------------|----------|-------|---------|-------|
| (単位：億円) | 2022年3月期 | 2023年3月期 | 前期比 | 為替影響調整後 | 2022年3月期 | 2023年3月期 | 前期比 | 為替影響調整後 | |
| 内視鏡 | 売上高 | 4,615 | 5,518 | +20% | +6% | 1,278 | 1,528 | +20% | +10% |
| | 営業利益 | 1,332 | 1,528 | +15% | ▲12% | 416 | 421 | +1% | ▲19% |
| 治療機器 | 売上高 | 2,756 | 3,182 | +16% | +3% | 719 | 843 | +17% | +7% |
| | 営業利益 | 608 | 637 | +5% | ▲14% | 170 | 156 | ▲8% | ▲23% |
| その他 | 売上高 | 130 | 119 | ▲8% | ▲12% | 32 | 33 | +2% | ▲3% |
| | 営業損益 | ▲20 | ▲9 | +11億円 | +12億円 | ▲5 | 0 | +5億円 | +5億円 |
| 全社・消去 | 営業損益 | ▲458 | ▲289 | +169億円 | +190億円 | ▲141 | ▲136 | +5億円 | +12億円 |
| 連結合計 | 売上高 | 7,501 | 8,819 | +18% | +4% | 2,029 | 2,404 | +18% | +9% |
| | 営業利益 | 1,462 | 1,866 | +28% | ▲3% | 440 | 440 | 0% | ▲23% |
| (参考) 非継続事業 | 売上高 | 1,187 | 1,354 | +14% | +1% | 362 | 444 | +23% | +12% |
| | 営業損益 | 77 | 70 | ▲9% | ▲90% | 10 | 56 | +439% | +263% |

2023年3月期 通期実績 サブセグメント別売上高成長率

| | 1Q | | 2Q | | 3Q | | 4Q | |
|-----------------|------|---------|------|---------|------|---------|------|---------|
| | 円ベース | 為替影響調整後 | 円ベース | 為替影響調整後 | 円ベース | 為替影響調整後 | 円ベース | 為替影響調整後 |
| 消化器内視鏡 | 18% | 5% | 17% | 1% | 27% | 10% | 19% | 9% |
| 外科内視鏡 | 11% | ▲1% | 4% | ▲10% | 7% | ▲7% | 33% | 22% |
| 医療サービス | 17% | 5% | 25% | 8% | 27% | 10% | 15% | 5% |
| 内視鏡事業合計 | 17% | 5% | 17% | 1% | 24% | 8% | 20% | 10% |
| 消化器科（処置具） | 14% | 5% | 15% | 3% | 12% | 2% | 17% | 9% |
| 泌尿器科 | 18% | 4% | 24% | 4% | 22% | 3% | 22% | 10% |
| 呼吸器科 | 7% | ▲5% | 9% | ▲7% | 14% | ▲2% | 11% | 2% |
| その他の治療領域 | 12% | 2% | 12% | ▲1% | 8% | ▲5% | 16% | 7% |
| 治療機器事業合計 | 14% | 2% | 16% | 1% | 15% | 0% | 17% | 7% |
| （参考）ライフサイエンス | - | - | ▲4% | ▲17% | 26% | 11% | 14% | 4% |
| （参考）産業 | - | - | 19% | 2% | 32% | 14% | 31% | 20% |
| （参考）非継続事業合計 | - | - | 10% | ▲6% | 29% | 12% | 23% | 12% |

連結キャッシュフロー 増減要因



*2023年3月期通期（4-3月）の主な特殊要因

| | |
|----------------------------|--------|
| 営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出・投資など | ▲424億円 |
| 営業CF：海外子会社における年金資産の追加拠出 | ▲122億円 |
| 投資CF：幡ヶ谷土地売却による収入 | +191億円 |
| 投資CF：投資有価証券、事業・子会社の取得など | ▲76億円 |
| 投資CF：科学事業の分社化に伴う一時的な資金負担など | ▲21億円 |

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2023年5月12日時点)



2024年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2024年3月期中頃に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入により、収益性を改善

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、欧州、日本、中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国)
- EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器内視鏡

- EVIS X1 (中国)
- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (米国)

4%

2024年3月期
売上高成長率¹

1 円ベースの成長率

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2023年5月12日時点)



2024年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイスなど主要カテゴリーにおいて、臨牀的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力し、欧州・アジア地域におけるSPiN Navigationの市場拡大を推進
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

| 現在の主力製品 | 直近の新製品 / 発売予定の製品 | 中長期のパイプライン |
|--|--|---|
| 消化器科 <ul style="list-style-type: none"> Visiglide ESD Knife EZ Clip / QuickClip Pro EndoJaw 泌尿器科 <ul style="list-style-type: none"> 前立腺肥大症治療用切除デバイス ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州) 呼吸器科 <ul style="list-style-type: none"> 気管支鏡、超音波気管支鏡 ViziShot スパイレーションバルブシステム EVIS X1 気管支鏡 (日本、欧州、アジア) | 消化器科 <ul style="list-style-type: none"> 3製品 (米国) 6製品 (欧州) 6製品 (日本) 泌尿器科 <ul style="list-style-type: none"> ESG-410 (米国、日本、アジア) シングルユース尿管鏡 (米国、日本) iTind (米国、欧州、アジア) 呼吸器科 <ul style="list-style-type: none"> 電磁ナビゲーションシステム (米国) シングルユース気管支鏡 (米国) 新超音波気管支鏡 (米国、中国) EVIS X1 気管支鏡 (米国) 超音波プロセッサー (欧州、日本、アジア) | 消化器科 <ul style="list-style-type: none"> シングルユース胆道鏡 泌尿器科 <ul style="list-style-type: none"> 膀胱鏡 カメラヘッド(CH-S700-08-LB 4K L-shape Camera Head) 呼吸器科 <ul style="list-style-type: none"> 電磁ナビゲーションシステム (欧州) 細径超音波気管支鏡 EVIS X1 気管支鏡 (中国) |

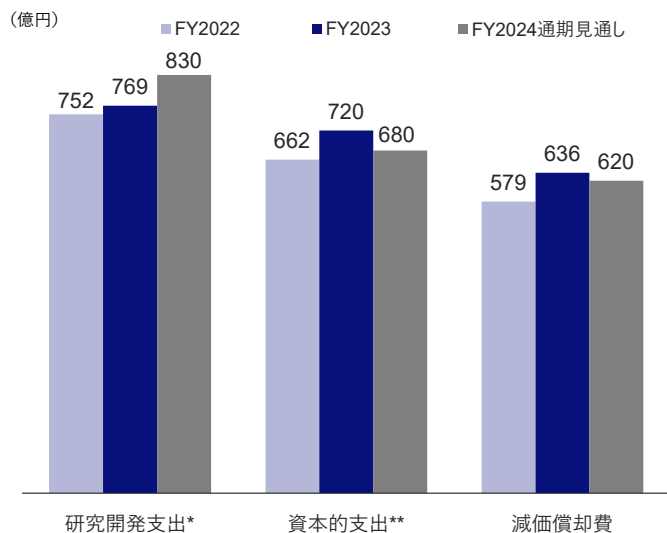
3%

2024年3月期
売上高成長率¹

*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれており、1円ベースの成長率

投資など

通期実績（4-3月）および通期見通し





| (単位：億円) | FY2022 | FY2023 |
|-----------------------|--------|--------|
| 研究開発支出* (a) | 752 | 769 |
| 開発費資産化 (b) | 116 | 126 |
| 損益計算書上における研究開発費 (a-b) | 636 | 643 |

| (単位：億円) | FY2022 | FY2023 |
|---------|-----------|----------|
| 償却費 | 67 | 84 |
| | 2022年12月末 | 2023年3月末 |
| 開発資産残高 | 534 | 536 |

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています
 **資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。(FY2022通期：147億円、FY2023通期：105億円、FY2024通期見通し：90億円)

財務ガイダンスおよび参考指標

| | | FY 2023 目標 | FY 2020 実績 | FY 2021 実績 | FY 2022 実績 | FY 2023 実績 |
|--|---------------|--------------------------------|------------------|--------------------|---------------------|----------------------------|
|  財務ガイダンス | 調整後 営業利益率* | >20% | 13.5% 1,021億円 | 14.1% 1,031億円 | 20.1% 1,507億円 | 20.0% 1,768億円 |
| | 調整後 FCF成長率 | >20% 2020年3月期を 起点とするCAGR | -% 711億円 | +11.6%** 794億円 | +35.9%** 1,313億円 | +6.2%** 853億円 |
|  参考指標 | 調整後 ROIC | >20% | 10.7% | 10.3% | 17.1% | 18.4% |
| | 調整後 EPS成長率 | >25% 2020年3月期を 起点とするCAGR | -% 45.49円 | +37.2%** 62.42円 | +46.6%** 97.73円 | +35.8%** 113.86円 |

注：特殊要因調整後 *継続事業のみ **FY2020を起点とするCAGR

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1か月間の平均値を原則としている

為替

| (単位：円) | FY2022 1Q | FY2022 2Q | FY2022 3Q | FY2022 4Q | FY2023 1Q | FY2023 2Q | FY2023 3Q | FY2023 4Q | FY2024見通し |
|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 円/USDドル | 109.49 | 110.11 | 113.71 | 116.20 | 129.57 | 138.37 | 141.59 | 132.34 | 132 |
| 円/Euro | 131.96 | 129.84 | 130.07 | 130.39 | 138.12 | 139.34 | 144.30 | 142.10 | 144 |
| 円/CNY | 16.96 | 17.02 | 17.78 | 18.29 | 19.58 | 20.19 | 19.87 | 19.34 | 19 |

為替感応度（年間）

| (単位：億円) | 売上高 | 営業利益 |
|-------------|-----|------|
| ドル（1円あたり） | 25 | 7 |
| 1ユーロ（1円あたり） | 16 | 6 |
| 人民元（1円あたり） | 58 | 35 |

*為替感応度（年間）はFY2023Q4実績より算出しています。